

第5次派遣(いわき) 5月26日(木)～6月3日(金)

班長：安藤 恒さん (中央)

井上 宏章さん (中央)

南雲 啓至さん (新潟)

《繋がい～第4次から第5次へ～》 5月26日



《左から報告をする田辺さん・松井さん・平尾さん》



《左から、井上さん・南雲さん・安藤さん》

第4次派遣の3名が元気に帰ってきました。

全労金では、昨日から「拡大全国代表者会議」を開催していましたので、会議終了後、3人を単組委員長と中央執行委員全員で出迎えました。田辺さんは「現地の復興には10年・20年を要するのではないか。ボランティアを継続する必要を実感している。絆・助け合いを肌で感じる事ができた」と報告しました。

全員でねぎらいの拍手を送り、第5次に引き継ぎました。

引き続き、第5次派遣の3名を紹介し、全員で送り出しました。第5次派遣は、中央労組安藤副委員長を班長に、中央労組井上副委員長、新潟労組南雲副委員長の3名です。

行き先は、第4次と同じ「いわきBC(ベースキャンプ)」。いわきBCには、全労金3名の他、電機連合・全電線のメンバーで、明日から7日間、活動することになります。

今回も3名には、ボランティア活動に加えて、ブログの更新もお願いしており、慣れないことばかりで大変だと思います。

是非、全国の仲間から、3名にエールをお願いします。

《第5次メンバー出発》 5月27日



《第5次メンバー 髭眼鏡三人衆》



《出発式でボランティア団を激励する

連合・山本副事務局長》



第5次メンバー3名が、出発しました！メンバーは中央労組 安藤副委員長、井上副委員長、新潟労組 南雲副委員長です。

今日は全労金の拡大代表者会議があり、その場で決意表明をさせていただきました。その後全労金で打ち合わせ、連合本部でのオリエンテーションと出発式を経て、多くの全労金役員に見送られての出発となりました。

3人はほぼ同世代、かつ、ともに副委員長、眼鏡着用、髭が濃い…と共通点も多く、これからの活動をいいチームワークで乗りきれそうです!!

我ら髭眼鏡三人衆(仮称)、これまでの活動を継承しつつ、次の活動にタスキを渡せるよう被災地のために元気に活動してきます!! (報告者 井上)

《第5次、初日の活動》 5月27日



《全国から寄せられたメッセージ》



《いわき市社会福祉センター》



《エコホテルいわき》

12時に東京を出発し、15時位にベースキャンプであるエコホテルいわきに到着しました。

到着後はオリエンテーションのあと、ボランティアセンターのいわき市社会福祉協議会を訪問。明日からの本格的作業に向けて、拠点となる場所を訪問し、改めて気を引き締めたところです!!

ベースキャンプやボランティアセンター周

辺は、被害は少なかったようですが、それでも

瓦屋根が損傷した家や、道路の歪み、地盤沈下などが散見され衝撃を受けました。また、ボランティアセンターでは、全国からのメッセージなどもたくさん届いており、改めて日本人の絆の深さを感じました。

その後、今回連合ボランティアでいわきBCを拠点とする電機連合、全電線の仲間計27名で自己紹介を行い、懇親を深め、明日からの作業に向けて意思統一をしました。

明日は天気予報があまり芳しくありませんが、出来ることを少しずつやっていきたいと思えます。

《二日目の活動》 5月27日



雨が降るのでは晩と天気を心配していましたが、曇り空の中、作業できました。今日はいわき市の中でも津波被害の大きかった薄磯地区のお寺周辺の清掃に資材班を除くいわきチーム24名で行きました。前日、住宅地図を見て訪問先を確認していましたが、実際に見た周辺はガレキの山で、大型重機で撤去作業が行われていました。昨日も行方不明の方が見つかったそうです。土砂に埋まったお墓の回り側溝を掘る作業でオーダーどおり終了しました。23才から59才のチームで一丸となって達成感のある活動が出来ました。

《第5次三日目》 5月28日



今日はあいにくの小雨の中、いわき市久之浜にある被災住宅にて、連合メンバーで作業しました。

現場は津波による被害が甚大な地区で、依頼者の家からほんの少し離れたところは、瓦礫の山。改めて津波の恐ろしさを痛感しました。

作業は浸水した1階部分の復旧でした。床板を剥がして、床下の泥を掃き出し、石灰で消毒したり、汚れた窓ガラス、網戸、雨戸、襖や障子などを掃除したりというものでした。

昼休みに依頼者の方と話をさせていただきました。依頼者の方は津波の第1波が来る前に高台に避難したそうですが、近所の方で一度は避難したものの、忘れ物を取りに戻り、第2波に飲み込まれて亡くなった方もいたそうです。また、車ごと流されたものの、なんとか脱出することができ、泳いで避難した親戚の方もいたそうです。

「運」という言葉で簡単に片付けてはいけませんが、まさに生と死は紙一重だと思ひ知らされました。

そんな中、温かい気持ちにもなりました。

近くで地元の方々が炊き出しをしており、我々にも豚汁などを振る舞ってくれました。また、依頼者の愛犬「モコちゃん」(♀、8ヶ月)の可愛さにも癒されました。彼女も被災しており、震災後少しですが吠えグセがついたとのことでしたが、今日は愛嬌を振り撒いてくれました♪。

明日はさらに天気が悪くなりそうですが、出来ることを出来る範囲でやって来たいと思います!!

写真は我々と全電線チームとの移動の足となっている連合福島の子、炊き出しの豚汁などを受けとった新潟労組南雲副委員長、そしてアイドル犬「モコちゃん」です\(^-^)/
(報告者 井上)

《第5次 四日目の活動》 5月29日



昨日に引き続き雨天のため、二班にわかれ、屋内作業を中心に作業しました。台風も接近するようですし、第5次メンバーの中に雨男でもいるのでしょうか。今日は勿来（なこそ）海岸近くの家の清掃でしたが、家の中まで入った砂を掻き出して土のうをたくさん積み上げました。頑張った井上副委員長です。海岸はとてもキレイでした。雨の中の作業でビショビショになりましたが、一人暮らしの家主の方からは大変感謝されました。（報告者 南雲）

《第5次五日目の活動》 5月30日



《移動を共にしている全電線の金子さん・元永さん(昭和電線労組)・大友さん(日立電線労組)と安藤・南雲副委員長》



《作業前の体育館》



《作業後の校長先生と連合いわきBC仲間》

今日は台風の影響で、活動事態が危ぶまれましたが、避難所として使われていたいわき市立草野小学校の体育館の片付けをしました。この小学校には、隣接する草野中学校と合わせ、最大2700名もの方が避難されたそうです。避難所として全教室を開放し、この体育館には最大300名が生活しており、つい昨日まで13名の方が避難生活を送っていたとのことでした。

写真を見てお気づきの方もいるかと思いますが、避難所には似つかわしくない紅白幕が張られていました。これは卒業式の予行演習の前日に震災にあい、そのまま避難所となったためとのことでした。

今日の作業は、支援物資やパイプ椅子の片付け、床に敷かれた防傷用のマットの清拭と片付け、紅白幕の片付け、床清掃などでした。これまでは体育館を使えなかったため、中学校の体育館を借りたりしていたそうですが、明日からは子供たちが以前のように元気に活動出来る状態にまで回復してきました！

作業終了後校長室に招かれ、震災直後の様子などの貴重なお話を伺うことができました。当日は食糧もなく、特に水不足が深刻だったとのこと。飲み水はもちろん、水洗トイレの水も不足ぎみで、プールの水や備蓄していた10トンタンクの利用したそうですが、一晩で4トンもの水を使ったとのことでした。その水の管理は、地元や被災地の消防団が24時間体制で行い、校長先生も2週間校長室に寝泊まりしていたそうです。また、寒さも深刻で、毛布は3〜4枚ないとしのげなかったようです。あらためて過酷な状況を思い知ることができました。

さて、気になる草野小学校の卒業式ですが、ほとんどの児童が隣の草野中学校に進学したため、4月6日の入学式の前の少しの時間を利用してささやかな式を挙行し、無事に卒業証書が手に渡ったそうです。感動するエピソードでした(T-T)

活動は折り返し、あと3日となりました！残り少なくなりましたが、少しでも力になれるよう明日からも頑張ります(^-^)(報告者 井上)

《第5次六日目の活動》 5月31日



《今日の海》



今日は久しぶりに晴れの天気予報で屋外の活動になりました。低気圧の影響か強風で気温も低く、側溝の清掃ということもあり、みんなで使い捨ての防塵服を着ました。場所は、塩屋埼灯台近くの合磯地区の蒲鉾工場で、多くのボランティアの方が作業したと思われる土のうがたくさんありました。眼前にあった建物が倒壊したため海からの強風と高波が迫ってくるようでした。赤い帽子と白い装束の集団はとても目立ちましたが、集団内では区別がつきにくかったです。写真は、区別のつかなくなった三人、依頼された作業は終了したものの工場や機械などの撤去はこれからで、今後は、生活再建への支援が必要だと感じました。活動も後二日ですが、できることをひとつひとつやっていきたいと思います。

《第5次七日目の活動》 6月1日



少し肌寒かった今日は、安藤・南雲副委員長は資材班、井上副委員長は作業班に分かれて活動しました！

資材班は、普段は社会福祉協議会でボランティアに貸出す資材の管理(搬出搬入や洗浄)をしているのですが、活動も終盤ということもあり、今日はビニール袋や土嚢袋といった膨大な資材の「棚卸し」を行い、大変忙しかったそうです。

一方作業班は、いわき市平豊間地区にある津浪で被災した家屋の家財道具の搬出や砂の掻き出しなどを行いました。さすがに手慣れてきており、平屋とはいえかなり大きな家屋でしたが、この間培ったチームワークでかなりの部分をきれいにすることができました!!

今日の依頼人は、被災して2ヶ月半の間ほとんど手をつけられないでいたそうですが、昨日になって社協に申し込めばボランティアに依頼ができることを知り、今日、我々がお手伝いをするようになったそうです。

まだまだ被災者には情報が行き届いていないことを実感し、手助けを必要としている人がたくさんいることが想像できます。

今日の現場の近くにはセブンイレブンがあったのですが、店舗は壊滅的な打撃を受けていました。しかし、移動販売車が来て営業を行っており、地元の野菜なども販売をしてました。

少しずつ復興はしてきていますが、まだまだ支援は必要です。継続した支援をしていき

ましよう!!

作業班がボランティアセンターに戻ると、同じく被災地でもある浦安市の社協の方々が「たこ焼」の炊き出しをしていてくれました！改めて日本人の「絆」を感じました。

作業は明日までとなります。若くない3人ですから体力的にはかなり厳しくなっていますが、みなさんの励ましの言葉のおかげで、無事に活動を終われそうです。

明日1日、悔いを残さないよう、全力で活動してきます(^-^)v (報告者 井上)

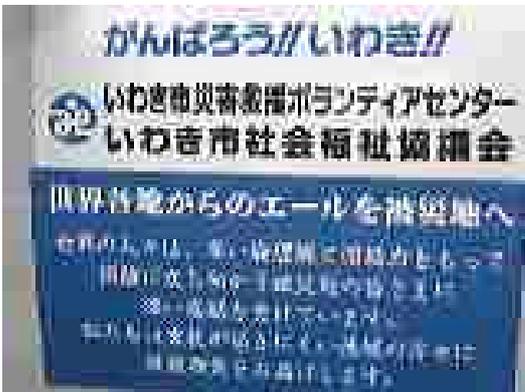
《第5次八日目の活動》 6月2日



《作業完了後》



《タンクローリーのタンク》



《社協の車に貼られているステッカー》

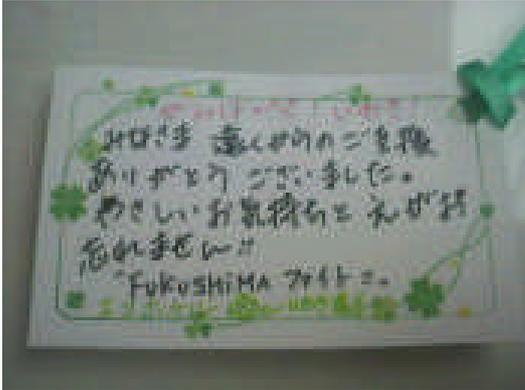


《いわき市内で自家用車に貼られているステッカー》

活動最終日ということで帰ってから悔いのないようにみんなに残る力を振り絞って頑張ってきました。

今日は安藤さん、井上さんが江名港の被災宅前の側溝からの土砂の清掃、南雲は、昨日に引き続き資材班で作業しました。被災宅近くには、タンクローリーのタンクが記念碑の上に打ち揚がっていました。三ヶ月近く経とうとしていますがまだまだ復興途上です。活動最終日、頑張って土のうに積み上げました。資材班では、ボランティアに行く人が少し減ってきているのが実感できます。ただこの一週間の間に何度も参加している人もいて、このボランティアセンターの力の源になっていると思いました。老若男女問わずさまざまなひとが作業着やジャージで参加する姿を見ると、普段スーツ姿の私達にはできない実行力に感動します。（報告者 南雲）

《第5次最終日》 6月3日



八泊九日の日程も本日が最終日。

朝食を食べて、7時30分にいわきを出発し、11時には全労金に帰って参りました。

これまでの報告にもあったように、朝食の際にはメンバー全員にホテルから手書きのメッセージが!!辛かった活動も、これで報われた気がします。また少しは復興の力になれたのかなと、実感もできました。

全労金では全国交流集会が開催されており、貴重なお時間をいただいて、安藤副委員長から活動の報告をさせてもらいました。第5次メンバーは行きも帰りもたくさんの方々から励まし、ねぎらいの言葉をかけていただき、感謝しております。また、ブログへの毎日のコメントも大変勇気づけられました。ありがとうございますm(__)m

先程第6次の全労金のメンバー4人が元気に出発していき、お見送りさせていただきました!!

引き続き、声援をしていただければと思います。

最後に、貴重な経験をさせていただいた連合、全労金、そして職場の皆様、本当にありがとうございました。この経験を少しでも多くの方々に伝えて、継続した支援に繋げるのが我々の使命だと思っています。

共に頑張りましょう!!

以 上